虫ささされ

虫ささされは，ハチ（スズメバチ，アシナガバチ）やマダニなどに刺されることによりおこります．ハチなどに刺されると，腫れて痛みだしたり，化膿したりします．おもに鼻付近と前肢が被害にあいやすく，中毒やショックをおこすこともあります．散歩中に変わった反応があった場合には，ハチの針が刺さっていないか，マダニなどが指の間についていないか，傷がないかをよく確認しましょう．

ハチに刺されると，ミツバチの場合では皮膚に針と毒の入った袋（毒嚢）が残りますが，スズメバチでは残りません．そのような場合は，ピンセットや毛抜きなどで気をつけて針を抜きましょう（逆棘があるので慎重に）．ただし，犬が嫌がって抜くのがたいへんな場合は，無理をせずに動物病院へ連れて行きましょう．また針を無理にひっぱると皮膚のなかに残るので，この場合も動物病院で切開してもらいましょう．
ハチは5〜6月に大量に羽化するため，ハチによる虫ささされの被害は7〜10月に多くなる傾向があります．

激しくなめる，かく

毒素が皮膚に入ると，毛細血管が拡張し，血漿がしみ出し，やがて急速に腫れ上がります．足を噛むのを嫌がったり，足をみせないときは，無理をせずに動物病院に連れて行きましょう．

ショックの兆候がみられる

ショックをみきわめる
42ページ

◆アナフィラキシーショック（即時型アレルギー反応）について

虫ささされ・食品・ワクチンなどによって，急激に全身にアレルギー反応がおき，ショック状態になることがあります．
- 気道粘膜の浮腫による呼吸困難（チアノーゼ症状）
- 血圧低下による循環不全状態（心停止がおこることもある）
- 意識がなくなるなどの虚脱状態

などの症状がおもに現れ，危険な状態になります．

症状は10〜30分後にもっとも強くなります．心停止や窒息などで10〜20%が死亡します．一度，処置を行って改善されても数時間後に再び症状が悪化することもあるので油断をしてはいけません．症状のはじまりを感じたら，一刻も早く治療を受けることが大切です．呼吸や血液循環を改善するために，エピネフリンやステロイドの注射・酸素吸入などが症状に合わせて行われます．

多数の刺し傷がある
傷口が見つからない

毒素により中毒反応，多臓器不全状態がおこる場合がある

至急

呼吸が苦しそうな場合やゼーゼーと音がする場合，歩けないなどの症状がある場合は早急な治療が必要です．

刺し傷が少なく
傷口がわかる

針や毒をとる
（ハチの詳細については上部参照）

口で毒を吸い出さない．
出たものは直接ふれず，ふきとる

▶傷口の処置法

ヘラやカードを使って，傷の周囲から中心に向かって絞りましょう．絞った血が直接指につかないように気をつけましょう．ビニール袋などを手にはめて，破れないように気をつけながら絞ってもよいでしょう．

至急

動物病院へ